

KEYAK!

7月号

けやきっこわくわくコンサートも無事に終わりました。子どもたちはもちろん、コールけやきのお母さんたちも協力してくれた役員のお母さんたちも、拍手を送るお母さんたちも、お母さんじゃないけど一生懸命な先生たちも、素敵な会をつくるためにはそれぞれの皆が必要不可欠なのを実感しました。

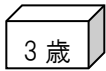
コンサート前の子どもたちの練習時に「なんでそんなに大きな口で歌えるの？」

「なんでそんなに素敵な顔で歌えるの？」と子どもたちの前で聞いてみました。

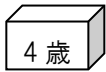
「年長だから!」「練習したから!」とくちぐちに答えが返ってきます。確かにおっしゃる通り。その答えの中には、歌いたいから、聴いてほしいから、自信があるから、などなどいろんな意味が詰まっていることも、その姿からちゃんとわかってますよ。私が答えを出すなら「こどもだから!」です。あの純粋な表現力は今の時期のこどもならではのと思いますし、できることならいつまでも失ってはほしくない姿であり、ときおり思い出してほしい「自分の姿」であってほしいものです。

さて、先月号で「下を向いて歩こう」のススメをしましたが、今回は「こどもが考える間(ま)をつくる」ススメ、です。コンサートの前日には「交通安全指導」がありました。指導員さんは「右見て、左見て、～」と左右が分かっているのが前提で進んでいきます。その場ではそこに焦点を置くわけにはいかないので、少し戸惑う子たちも「なんとなくクリア」して無事に終わってしまいます。のちに(あるいはその前に)それを教えていくのが先生であり私たち大人なのですが、例えば「右はこっちだよー」とか「お箸持つほうだよ」あるいは右はこっちね、と手を取ってあげたりします。まあ確かに大人って忙しいのよね、いろいろあるからね。教える、ことにはなっていると思いますが、それが「身についた」かどうかは別問題です。大人が答えを出していくより、「えーっと、右ってどっちだっけ？」なんてたまには子どもが自分で考える「間」をつくってあげられると、その子はきっと、自分のちからをしっかりと身につけていけるのではないかと思います。例として左右を挙げましたが、「考えるちから」についてはまた次回、かいずれ、もう少し触れたいと思います。

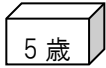
年長さんはさらに、お泊り保育もやってきます。いろんなこと考えて、いろんなこと経験して、コンサート同様お泊まり会の思い出が、子どもたちにとって、かけがえのないものになるように、職員一同で盛り上げちゃおうとすでに画策中です!



- ・ 自分で「やってみたい」という気持ちを持って、身の回りの始末など、自発的に取り組もうとする
- ・ 「入れて」「いいよ」などのやりとりの中で、友達と遊ぶ楽しさを知る
- ・ 水遊びやプールあそびを通して、開放感を味わう



- ・ 経験したことをイメージし、ごっこ遊びに取り入れようとする
- ・ 保育者や友達と一緒にいろいろな水遊びを楽しみ、開放感を味わう
- ・ みんなで使うものを大切に扱い、自分でできることをやってみようとする



- ・ 工夫して必要なものを作ったり、様々な表現を楽しむ
- ・ 友達の思いや自分とは違う意見があることに気づき、受け入れたり、遊びや活動の中に取り入れようとする
- ・ グループごとに協力し、助け合い、励まし合って行動できる
- ・ テーマに沿って意見が言えたり、自分たちで1つの納得できる結論をだせる